

事業の背景・目的

洞爺湖には、ウグイやヨシノボリなどの在来種や、絶滅危惧種のイトイバラモやチトセバイカモなど希少な水草などが生息している。2005年のウチダザリガニの発見以降、生息域内では水草やスジエビ等の在来種は激減した。地域を上げて洞爺湖固有の生物多様性を保全するため、洞爺湖生物多様性保全協議会を設立しウチダザリガニの防除に取り組んできた。しかしながら、近年、ウチダザリガニの生息域は洞爺湖一円に拡がりつつあり、限られた予算の中で最大限効率的な捕獲方法などの手法を確立することが急務であり、生物多様性保全推進支援事業を活用し、将来的な防除体制づくりを行う。

事業の内容

- 事業
- ①洞爺湖水草生息状況調査業
 - ②ウチダザリガニ連続捕獲装置の実践投入
 - ③ウチダザリガニの捕獲調査
 - ④洞爺湖で捕獲されたウチダザリガニのデータ収集及び分析
 - ⑤地域における生物多様性保全の意識醸成のための啓発活動

- 事業①潜水調査により目視調査並びに種の同定を専門家に依頼した。
- ②現時点で最も効果的な捕獲手法のため引続き導入した。
 - ③継続した捕獲調査及び他団体との連携を図った。

- ④ウチダザリガニのデータ分析を専門家に依頼し洞爺湖における生物多様性を保全するための体制づくりを強化した。
- ⑤外来種が及ぼす生態系への影響など啓発活動に努めた。

得られた成果

- ・ウチダザリガニの影響により洞爺湖の生物多様性は危機的な状況にある。ウチダザリガニを過年度より継続して捕獲していることにより捕獲数は約16%減少に転じたため、継続した活動により大きな成果を得られた。
- ・酪農学園大学と洞爺湖町が共催でシンポジウムを開催し、研究成果を地域住民へフィードバックできたことにより、産学官民の連携が強化された。

